2026年11月2日

各　位

会 社 名　ＭａｂＧｅｎｅｓｉｓ株式会社
代表者名　代表取締役　新庄　勝浩
（コード番号：653A　東証グロース）
問合せ先　執行役員管理部長　山本　和規
（TEL　045-534-6033）

東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、 2026年11月2日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2027年３月期（2026年４月１日から2027年３月31日まで）における当社の業績予想は次のとおりであります。また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個 別】　（単位：百万円、％）

決算期 項目	2027年３月期 （予想）			2027年３月期 第２四半期累計期間 （予想）			2027年３月期 第１四半期累計期間 （実績）		2026年３月期 （実績）	
		対売上高比率	対前期増減率		対売上高比率	対前期増減率		対売上高比率		対売上高比率
売 上 高	352	100	4.4	97	100	―	42	100	337	100
営業利益又は営業損失（△）	△5	―	―	△69	―	―	△37	―	35	10.6
経常利益又は経常損失（△）	△11	―	―	△72	―	―	△36	―	36	10.8
当期（四半期又は中間）純利益又は純損失（△）	△11	―	―	△72	―	―	△36	―	36	10.7
１株当たり当期（四半期又は中間）純利益又は純損失（△）	△1円58銭			△10円23銭			△5円20銭		5円08銭	
１株当たり配当金	0円00銭			0円00銭			0円00銭		0円00銭	

（注）１．当社は連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。
２．2026年３月期（実績）、2027年３月期第１四半期累計期間（実績）及び2027年３月期第２四半期累計期間（予想）の１株当たり当期（四半期又は中間）純利益又は純損失は期中平均発行済株式数により算出しております。
３．　2027年３月期（予想）の１株当たり当期純損失は、公募株式数（940,700株）を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当増資分（最大298,000株）は考慮しておりません。
４．当社は、2026年６月30日付で普通株式１株につき100株の株式分割を行っておりますが、上記では2026年３月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、１株当たり当期（四半期又は中間）純利益又は純損失を算出しております。

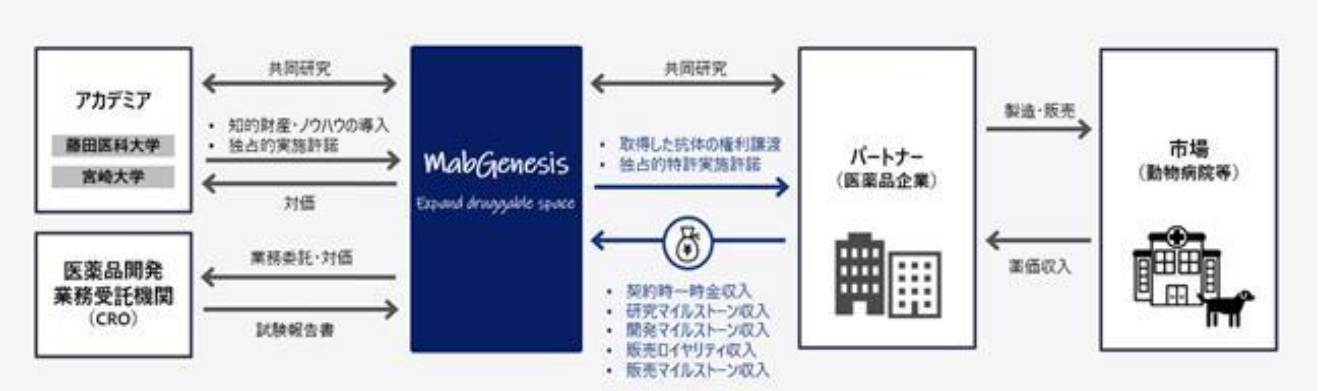
【当社の事業内容】

当社は、藤田医科大学と国立大学法人宮崎大学（以下、「宮崎大学」）で開発された抗体取得技術を医療に還元することを目的として、2019年６月に設立されました。当社は創業以来、自社独自の研究開発と動物用医薬品企業との共同研究によってペット(イヌ、ネコ）用抗体医薬品の創出に取り組んでおります。

自社で構築したイヌ及びネコのファージディスプレイ抗体ライブラリー（注１）と、モノクローナル抗体（注２）単離技術をビジネスの基盤として、創業以来、ペット用抗体医薬品の創出に取り組んでおります。当社の保有する抗体ライブラリー及び単離技術は、従来困難とされていた創薬標的抗原（注３）に対するモノクローナル抗体の提供を可能とするものです。当社は、自社主導の研究開発と動物用医薬品企業等との共同研究を事業の両輪として、動物用抗体医薬領域での創薬活動を推進しております。なお、当社は、医薬品の研究開発事業のみの単一セグメントであります。

当社は、以下の事業系統図で示しますように、当社保有の抗体ライブラリーより取得する抗体について、その開発・製造・販売する権利を製薬企業に導出（注４）することで収益を得ております。

＜事業系統図＞



当社は、藤田医科大学及び宮崎大学が保有するファージディスプレイ抗体技術に関するノウハウの独占実施権許諾を受けて、ペット（イヌ、ネコ）用抗体医薬品にフォーカスしたバイオ医薬品の研究開発を行う企業として創業しました。創業後の早い段階でイヌ及びネコそれぞれのファージディスプレイ抗体ライブラリーを構築することで、当社の基盤アセットを確立しました。なお、取得した抗体の特性を評価する過程で必要となる各種試験は、大学等の公的研究機関との共同研究や、医薬品開発業務受託機関（Contract Research Organization: CRO）（注５）への業務委託も活用しデータを取得しています。

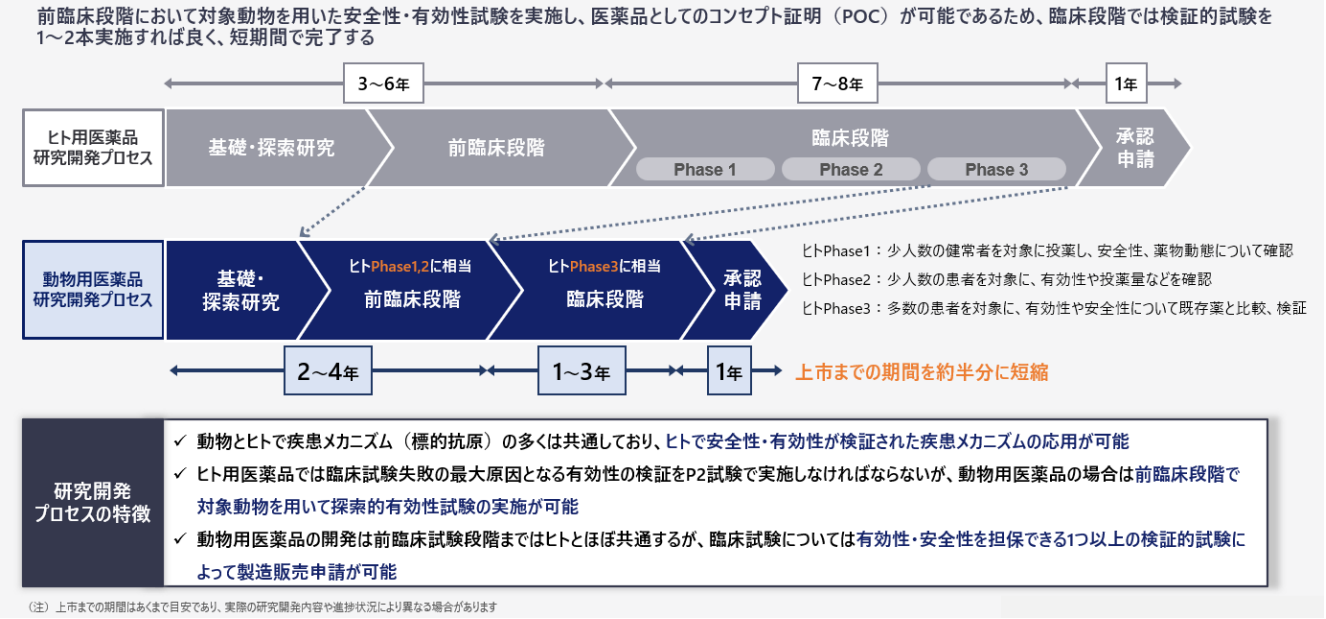
当社では、抗体を取得する研究の総体をプロジェクトと称します。当社のプロジェクトは、当社が設定する標的抗原に対して当社が単独で抗体を取得するもの（以下、「自社プロジェクト」）と、製薬企業との合意に基づいて設定する標的抗原に対して抗体を取得するもの（以下、「共同研究プロジェクト」）とがあります。自社プロジェクトでは、抗体を取得後、一定の前臨床試験（注６）を当社主導で実施したのち開発から製造販売までを実施できる製薬企業（以下、「パートナー」といいます）への導出のための事業開発活動を行います。一方、後者の場合は、当社の基盤技術を評価するパートナーと標的抗原及び取得する抗体の品質条件について合意した共同研究契約を締結後、抗体取得(共同研究)を開始し、品質条件を満たす抗体は、契約に基づきパートナーへ導出します。

自社プロジェクト及び共同研究プロジェクトの契約によって得られる収益の構造は、以下に示すとおりです。

収益の種類	内容
契約時一時金	アップフロントとも呼ばれ、契約締結時に受領する収入
研究マイルストーン	共同研究の進捗に応じて受領する収入
開発マイルストーン	導出後、研究開発の進展や承認取得に応じて受領する収入
販売ロイヤリティ	製品の売上金額の一定料率を受領する収入
販売マイルストーン	製品の年間売上が所定の金額に達した際に受領する収入

＜ヒト用医薬品開発とペット用医薬品開発の違い＞

ヒト用医薬品の開発は、製造販売承認を得るまでに前臨床試験の後にフェーズ１からフェーズ３の原則３段階の臨床試験（注７）を実施する必要があり、これらの実施に７～８年程度を要するといわれています（出典：Research Paper Series No.82, 日本製薬工業協会)。一方、ペット用医薬品の開発は、前臨床試験段階まではヒトとほぼ共通しますが、その臨床試験は大きく異なります。臨床試験は、VICHのガイドライン（VICH, Guideline, Good Clinical Practice）（注８）に則り、実施地域の規制当局（米国における規制当局であるFDA（米国食品医薬品局）又はUSDA（米国農務省)、欧州における規制当局であるEMA（欧州医薬品局)、農林水産省）との合意の下、臨床試験（pivotal study）を行いその安全性と有効性を証明します。ヒトと異なり、３つのフェーズに分かれておらず、有効性、安全性を担保できる１つ以上の臨床試験の結果によって製造販売申請が可能です（出典：Clinical Trials of Veterinary Medications Differ From Drugs for Human Use 2022, Volume 88, Pharmacy Times)。疾患によって異なりますが、通常１-３年程度で完了するといわれています（出典：当社によるグローバル動物用医薬品企業インタビュー)。このような制度の違いのため、新薬開発に必要な期間はヒト用医薬品の約10年に対し、ペット用医薬品では約５年と短いことから、医薬品開発企業にとってペット用医薬品の開発はヒト用医薬品に比べ低リスクであり、また、そのような企業をパートナーとする当社にとっても開発マイルストーンや販売ロイヤリティを得られるタイミングがヒト用医薬品よりも早いという利点があります。また、上記の開発期間の短縮に応じて、新薬開発に必要な開発コスト（研究開発から臨床試験に至る総開発コスト）も、ヒト用医薬品の約1,000億円以上（出典：日本製薬工業協会調べ）に対しペット用医薬品は約30億円と抑えられます（出典：Animal Health Institute.org)。このように、ペット用医薬品は一般的なヒト用医薬品開発と比較して、新薬開発に必要な期間を４～６年短縮し、コストは90～95%削減可能であると言えます。



＜当社の取引実績＞

以下のとおり、当社は動物薬における世界トップクラスの製薬企業と複数の共同研究契約等の締結を実現しております（2026年８月末現在）。

売上高順位	企業名	売上高（2024年）	ステータス
1	Zoetis	$9,256百万	
2	MSD Animal Health（Merck）	$5,877百万	2024年より共同研究開発実施中
3	Boehringer Ingelheim Animal Health	€4,749百万	2021年～2023年共同研究実施
4	Elanco	$4,439百万	
5	Ceva Santé Animale	€1,770百万	2021年より共同研究開発実施中 2024年に譲渡契約締結
6	Virbac	€1,397百万	2025年に譲渡契約締結
⋮			
11	共立製薬	約63,200百万円	2023年より共同研究開発実施中

【2027年３月期業績予想の前提条件】

１．　当社全体の見通し

ヒト臨床段階フェーズ１、フェーズ２に相当する動物用医薬品の前臨床段階に本資料提出日現在７件のプロジェクトがあり、うち４件はパートナーであるCeva Santé Animale S.A.（以下「Ceva社」）、Virbac S.A.（以下「Virbac社」）、日本曹達（株）及び共立製薬（株）へ、抗体の研究、開発、製造、販売に関する権利を導出済であり、各パートナーが開発を進めております。このうちVirbac社と日本曹達（株）に対しては自社プロジェクトで取得した抗体の導出で、Ceva社と共立製薬（株）に対しては共同研究プロジェクトで品質条件を満たす抗体の取得に成功し、その権利を導出したものです。

探索段階にある11件のプロジェクトのうち10件は国内外の大手動物薬企業との共同研究プロジェクトであり、進捗に応じたマイルストーン受領条件を定めた契約に基づいて研究を進めております。また、すい臓がんを適応としたヒト用抗体は国内公的研究機関との共同研究を実施中です。

＜プロジェクト一覧（2026年８月末現在）＞

動物種	標的分子	市販ヒト医薬品	対象疾患	探索段階		前臨床段階 ヒト臨床段階フェーズ１,２に相当	臨床段階	承認申請	ステータス
				評価系構築 スクリーニング	候補抗体の絞り込み				
イヌ	非開示	有り	慢性炎症疾患			導出			導出済み
ネコ	非開示	有り	慢性炎症疾患			導出			導出済み
ネコ	IL-4 受容体	有り	皮膚疾患 喘息						自社プロジェクト 導出活動中
イヌ	非開示	有り	皮膚疾患			導出			導出済み
イヌ	非開示	有り	リンパ腫			導出			導出済み （日本・アジア）
									導出活動中 （グローバル）
イヌ	IL-23 受容体	有り (IL-23)	慢性腸疾患						自社プロジェクト 導出活動中
イヌ	IL-4 受容体	有り	皮膚疾患						自社プロジェクト
イヌ	非開示	有り	皮膚疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	有り	がん						共同研究実施中
イヌ	IL-23p19	有り	慢性腸疾患						自社プロジェクト
ネコ	非開示	開発中	慢性疼痛						共同研究実施中
イヌ	非開示	開発中	慢性疼痛						共同研究実施中
ネコ	非開示	有り	皮膚疾患						共同研究実施中
ネコ	非開示	開発中	慢性腎疾患						共同研究実施中
ネコ	非開示	低分子	慢性腎疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	フェーズ３ 開発中	皮膚疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	開発中	皮膚疾患						共同研究実施中
イヌ	非開示	有り	皮膚疾患						共同研究実施中
ヒト	非開示	無し	すい臓がん						共同研究実施中

2027年３月期は、当社のイヌ及びネコの抗体ライブラリーを活用したパートナーとの共同研究プロジェクトにおいて、既存契約に基づく研究マイルストーン等の受領を見込むほか、自社プロジェクトの導出に伴う収益計上を計画しております。一方で、研究開発活動の継続及び上場準備に伴う費用の発生を見込んでおります。

2026年６月には、グローバル製薬企業に導出した抗体の開発の進捗により、契約に従いマイルストーン一時金を受領しております。また、グローバル製薬企業と前事業年度に締結した、複数の治療標的分子を標的とする抗体医薬品の創出を目的とした共同研究契約の見直しを行い2026年６月に追加の一時金を受領しました。さらに複数の共同研究プロジェクトについて、今期中にマイルストーン達成することを見込んでおります。自社プロジェクトである抗ネコインターロイキン4受容体抗体については、取得した抗体の安全性および有効性を確認する目的で探索的臨床試験（注９）を実施中ですが、これまでに有望な結果が得られていることから今期中のグローバル製薬企業への導出を目指して活動中です。

以上の結果、2027年３月期の業績としては、売上高352百万円、営業損失５百万円、経常損失11百万円、当期純損失11百万円を見込んでおります。

２．　業績予想の前提条件

当社は、医薬品の研究開発事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。なお、本業績予想は7月までは実績値、8月以降は、それまでの実績を勘案して見通しを立て直したものとなります。

(1) 売上高

当社は単一セグメントですが、売上高は、共同研究プロジェクト、自社プロジェクトごとに算出しております。

・共同研究プロジェクト

共同研究プロジェクトについては、Ceva社及びMSD Animal Health社関連案件等の契約済プロジェクトにおけるアップフロント及び研究マイルストーン収入を中心に、2027年３月期に約235百万円の収益計上を見込んでおります。

・自社プロジェクト

自社プロジェクトについては、自社取得品に係る導出又は研究マイルストーン収入として、2027年３月期に約112百万円の収益計上を見込んでおります。

また、その他コンサルテーション収入として約４百万円の収益計上を見込んでおります。

以上により、2027年３月期の売上高は352百万円を見込んでおります。

(2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、2027年３月期の計上はありません。

以上により、2027年３月期の売上総利益は352百万円を見込んでおります。

(3) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、研究開発費とその他一般管理費から構成されております。

研究開発費は、主に宮崎大学共同研究費用、名古屋大学産学連携費用、外部委託費用、試薬・消耗品費及び共同研究費等から構成され、2027年３月期は173百万円を見込んでおります。

その他一般管理費は、役員報酬、給料手当、法定福利費、支払報酬料、通信費、旅費交通費、外注費、租税公課等から構成され、上場準備に伴う専門家報酬、証券会社関連費用、印刷会社・証券代行機関関連費用等を含めて計画しております。

これにより、2026年３月期は141百万円であるのに対して、2027年３月期は184百万円（前期比30.4％増）を見込んでおります。

以上により、販売費及び一般管理費は357百万円、営業損失は５百万円を見込んでおります。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外収益は、2026年３月期は１百万円であるのに対して、2027年３月期の計上はありません。

営業外費用は、主に東京証券取引所、証券代行機関、印刷会社等への上場関連費用を中心に６百万円を見込んでおります。

以上により、2027年３月期の経常損失は11百万円を見込んでおります。

(5) 特別損益、当期純利益

特別利益及び特別損失は、業績予想作成時点で見込んでいるものはございません。

以上により、2027年３月期の当期純損失は11百万円を見込んでおります。

(6) 現在までの進捗状況

2026年４月から８月までの実績では、売上高は主に既存契約に基づく収入により推移しており、下期にかけては共同研究プロジェクト及び自社プロジェクトのマイルストーン達成時期に応じた収益計上を見込んでおります。

３．　第２四半期累計期間の業績予想について

2027年３月期第２四半期累計期間の業績予想につきましては、売上高97百万円、営業損失69百万円、経常損失72百万円、中間純損失72百万円を見込んでおります。

第２四半期累計期間売上高につきましては、既存の共同研究契約に基づく研究マイルストーン収入を中心に売上高等の計上を見込んでおります。一方で、費用面につきましては、研究開発活動の継続に伴う研究開発費のほか、上場準備に伴う専門家報酬、証券会社関連費用、印刷会社・証券代行機関関連費用等の発生を見込んでいることから、営業損失69百万円を見込んでおります。

また、営業外費用として上場関連費用等の発生を見込んでいることから、経常損失は72百万円を見込んでおります。特別利益及び特別損失は、業績予想作成時点で見込んでいるものはないため、中間純損失は72百万円を見込んでおります。

2027年３月期第２四半期累計期間及び通期の業績予想は、本資料の日付時点において入手可能な情報に基づく判断及び仮定を前提としており、当該前提と異なる状況となった場合、業績が変動する可能性があります。

なお、当社の売上高は、共同研究プロジェクトにおけるマイルストーンの達成時期及び自社プロジェクトの導出時期によって計上時期が変動するため、四半期ごとの業績には期間的な偏りが生じる可能性があります。また、当社は、当面はイヌ及びネコの抗体ライブラリーを基盤としたペット用抗体医薬品の研究開発並びにパートナーへの導出活動を推進してまいりますが、導出後の開発の進展等に応じて受領する開発マイルストーン及び販売ロイヤリティの計上までには一定程度の期間を要するため、その間、損失の計上が続く可能性があります。加えて、医薬品の上市までには開発の失敗や遅延のリスクを伴います。

＜用語解説＞

注番号・用語	用語の定義
（注１）ファージディスプレイ抗体ライブラリー	細菌に感染するウイルスであるファージに抗体分子を表出する技術（ファージディスプレイ）を用いて作製した、抗体（重鎖、軽鎖から形成され、それぞれ定常領域と抗原結合領域を含む可変領域からなる）の遺伝子の集合をいう
（注２）モノクローナル抗体	数億種類存在する抗体から選び出した、単一種類の抗体
（注３）創薬標的抗原	抗体医薬品の標的となる、疾患と関連する物質（抗原）
（注４）導出	成果物を他社へライセンス供与または権利譲渡すること
（注５）医薬品開発業務受託機関（Contract Research Organization：CRO）	製薬企業や医療機器メーカー等から、医薬品・医療機器の開発に関わる業務の全部又は一部を受託して行う専門機関
（注６）前臨床試験	開発中の新薬候補物質や医療機器について、ヒト、イヌ、ネコ等を対象とした臨床試験（治験）を実施する前に、実験動物や培養細胞などを用いて有効性（薬理作用）や安全性（毒性、副作用など）を評価・検証する試験をいう
（注７）フェーズ１からフェーズ３の原則３段階の臨床試験	ヒト医薬品の臨床試験を実施する際、通常フェーズ１からフェーズ３の３段階に分けて臨床試験が実施される 第１相試験（フェーズ１試験）：少数の健康成人を対象に、開発中の医薬品候補物質を初めてヒトに投与し、主に安全性と薬物動態（投与した物質の吸収、分布、代謝、排泄）を評価すること 第２相試験（フェーズ２試験）：第１相試験で安全性が確認された後、少数の患者を対象に、医薬品候補物質の有効性および安全性を確認し、最適な用法・用量（投与量や投与間隔など）を検討することを目的とした臨床試験 第３相試験（フェーズ３試験）：第２相試験で得られた情報に基づき、多数の患者を対象に、既存の標準治療薬やプラセボ（偽薬）との比較を行う臨床試験。医薬品候補物質の有効性および安全性を統計学的に検証することを目的とし、製造販売承認申請における最も重要な根拠データとなる

（注８）VICHのガイドライン（VICH, Guideline, Good Clinical Practice）	動物用医薬品の承認申請資料の共通利用を通じて開発費の削減や承認審査を迅速化する目的で、日本・アメリカ・EUの三極を中心に策定されている動物用医薬品の承認申請データや試験基準の国際的な統一ガイドライン
（注９）探索的臨床試験	開発早期段階において、対象動物を用いて開発品の安全性及び有効性の兆候（シグナル）を探索・確認するために実施される試験。仮説の検証や、より大規模な試験へ進むかどうかの意思決定の基準となる

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に掲載されている当社の業績見通しは、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

また、創薬バイオベンチャーの一般的なリスクは『https://www.jpx.co.jp/listing/others/risk-info/』をご参照ください。

なお、当社はペット用抗体医薬品の研究開発事業を営んでおり、当社固有のリスクを踏まえた投資判断が必要となりますが、当社固有のリスク情報等については、「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）の「事業の内容」「経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」「事業等のリスク」、「経営上の重要な契約等」などの記載事項をご確認ください。

以上

2027年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月2日

上場会社名　MabGenesis株式会社　　上場取引所　東
コード番号　653A　　ＵＲＬ　https://mabgenesis.com
代表者　（役職名）代表取締役　　（氏名）新庄　勝浩
問合せ先責任者　（役職名）執行役員管理部長　　（氏名）山本　和規　　ＴＥＬ　045-534-6033

配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年3月期第１四半期の業績（2026年４月1日～2026年６月30日）

（１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第１四半期	41	－	△37	－	△36	－	△36	－
2026年3月期第１四半期	－	－	－	－	－	－	－	－

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第１四半期	△5.20	－
2026年3月期第１四半期	－	－

（注）１．当社は、2026年3月期第１四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、2026年3月期第１四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2027年３月期第１四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
２．１株当たり四半期純利益の算定上、優先株式を含めて算定しております。
３．2026年６月30日付で普通株式１株につき100株の株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、１株当たり四半期純利益を算定しております。
４．潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、また１株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第１四半期	544	531	97.6
2026年3月期	584	568	97.2

（参考）自己資本　2027年3月期第１四半期　531百万円　2026年3月期　568百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2027年3月期	－				
2027年3月期（予想）		0.00	－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年3月期の業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	352	4.4	△5	－	△11	－	△11	－	△1.58

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期１Ｑ	7,114,000株	2026年3月期	3,814,000株
②　期末自己株式数	2027年3月期１Ｑ	－株	2026年3月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期１Ｑ	7,114,000株	2026年3月期１Ｑ	－株

（注）１．優先株式は、期末発行済株式数（自己株式を含む）には含めておりません。優先株式を、期中平均株式数（四半期累計）に含めております。

２．2026年５月25日開催の臨時取締役会において、Ａ－１種優先株式及びＢ種優先株式の全てにつき、定款に定める取得条項に基づき取得することを決議し、2026年６月11日付で自己株式として取得し、対価としてＡ－１種優先株式及びＢ種優先株式１株につき普通株式１株をそれぞれ交付しております。また、当社が取得した当該Ａ－１種優先株式及びＢ種優先株式について、2026年６月11日開催の臨時取締役会決議により、同日の2026年６月11日付で消却を行っております。なお、当社は、2026年６月26日開催の定時株主総会において、同日の2026年６月26日付で種類株式を発行する旨の定款の定めを廃止しております。

３．2026年６月30日付で普通株式１株につき100株の株式分割を行っております。2026年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

４．当社は、2026年３月期第１四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、2026年３月期第１四半期の期中平均株式数（四半期累計）については記載しておりません。

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載した業績見通し等は、本資料公表日現在にて入手可能な情報をもとに、当社が合理的と判断した一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因の変化等によって予想数値とは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

業績予想に関する事項は、添付資料P.4「１．経営成績等の概況（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 2
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 2
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 3
（１）四半期貸借対照表 …… 3
（２）四半期損益計算書 …… 4
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 5
（セグメント情報等の注記） …… 5
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 5
（継続企業の前提に関する注記） …… 5
（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 5

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当社は、世界に誇る革新的ファージディスプレイ抗体技術を利用し、ヒトと動物（ペット）のアンメットメディカルニーズを満たす完全ヒト、完全イヌ、完全ネコ型の高品質、高機能性抗体医薬の創製に取り組んでいます。

近年、ペット（イヌ、ネコ）の高齢化に伴う免疫疾患、がん、関節疾患等の慢性疾患の増加と、家族の一員としての位置づけ定着により、ペットに対する高品質な医療ニーズが増大しています。これに伴い、安全かつ有効な治療モダリティーである抗体医薬への期待が世界中の獣医療従事者、ペットオーナー、動物用医薬品企業の間で急速に高まっています。また、日米欧の大手動物用医薬品企業は、ペット用抗体医薬への本格的参入に向けた取り組みを活発化させており、過去20年ヒト用抗体医薬で見られたように、イヌ、ネコ用抗体医薬も今後10年で現在の８品目から50品目を超える新たな巨大市場が形成されると予測されています。当社はこの市場環境に応じて、事業提携の機会増加が確実に見込める動物用抗体医薬品領域を重点領域として、共同研究プロジェクトと自社プロジェクトの両軸で研究開発と事業開発活動を展開して参りました。

当第１四半期累計期間においては、共同研究プロジェクトでは、Ceva Santé Animale（Ceva）社とのイヌ疾患治療用抗体に関する共同研究が順調に進行し、欧州特許庁への特許出願のマイルストーンを達成し、一時金を受領しました。また、MSD Animal Health社との共同研究において、既存の３つのプロジェクトの標的分子の変更契約に合意し、その内の１つのプロジェクトは、当社が進めてきたプロジェクトを同社との共同研究契約のもとで継続するため、当社の研究進捗に相当する対価として契約一時金を受領し、もう１つのプロジェクトでは標的分子の変更による追加の契約一時金を受領しました。その他、複数の動物薬企業との共同研究及び新たな共同研究契約の交渉が順調に進んでおり、第２四半期以降に研究開発マイルストーンの達成及び契約一時金の受領を見込んでおります。自社プロジェクトでは、複数のプロジェクトで研究が順調に進み、導出に向けた動物薬企業との交渉を開始し、第３四半期以降に導出契約の締結を見込んでおります。当第１四半期累計期間の売上高は、41,857千円を計上しました。販売費及び一般管理費は研究開発費38,065千円を含む79,056千円が発生し、営業損失は37,198千円となりました。営業外収益は為替差益304千円が発生したため、経常損失は36,894千円、四半期純損失は36,970千円となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第１四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて40,616千円（6.9%）減少し、544,091千円となりました。流動資産は、前事業年度末の536,076千円より35,706千円（6.7%）減少し、500,370千円となりました。固定資産は、主に研究開発機器の減価償却により、前事業年度末の48,631千円より4,910千円（10.1%）減少し、43,721千円となりました。

（負債）

当第１四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べて3,646千円（22.1%）減少し、12,871千円となりました。これは主に流動負債にて未払金の減少2,546千円、前受金の減少1,533千円があったことによるものです。

（純資産）

当第１四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べて36,970千円（6.5%）減少し、531,219千円となりました。これらの結果、自己資本比率は、前事業年度末の97.2%から0.4ポイント微増し、97.6%となりました。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の業績予想につきましては、2026年11月２日の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表しました通期の業績予想から変更はありません。

今後、今後の様々な要因の変化等により業績予測の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

なお、本資料に基づき記載した業績予測等は、本資料発表に現在にて入手可能な情報をもとに、当社が合理的と判断した一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因の変化等によって予想数値とは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2026年3月31日)	当第１四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	451,906	431,349
売掛金	78,852	39,233
その他	5,317	29,787
流動資産合計	536,076	500,370
固定資産		
有形固定資産	47,900	43,041
無形固定資産	495	455
投資その他の資産	235	223
固定資産合計	48,631	43,721
資産合計	584,708	544,091
負債の部		
流動負債		
未払法人税等	304	76
その他	15,411	11,991
流動負債合計	15,716	12,068
固定負債		
資産除去債務	801	803
固定負債合計	801	803
負債合計	16,518	12,871
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	545,888	545,888
利益剰余金	△67,698	△104,668
株主資本合計	568,190	531,219
純資産合計	568,190	531,219
負債純資産合計	584,708	544,091

（２）四半期損益計算書

（第１四半期累計期間）

（単位：千円）

	当第１四半期累計期間 （自2026年４月１日 至2026年６月30日）
売上高	41,857
売上総利益	41,857
販売費及び一般管理費	79,056
営業損失（△）	△37,198
営業外収益	
為替差益	304
営業外収益合計	304
経常損失（△）	△36,894
税引前四半期純損失（△）	△36,894
法人税、住民税及び事業税	76
法人税等合計	76
四半期純損失（△）	△36,970

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

当社は研究開発事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第１四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	当第１四半期累計期間 （自　2026年4月　1日 至　2026年6月30日）
減価償却費	5,010千円